

からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.3.30-4.5

3.30
月曜日

「神は真実なお方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。」(I コリント 10:13) ●これまでの歴史の中には、外から見れば決して耐えられないような試練をも耐え抜いた殉教者たちがいます。ローマ帝国の迫害の中猛獣のいる闘技場に投げ込まれた信仰者たち。みことばよりも教皇を重視するローマカトリックの命がけて批判した信仰者たち。鎖国中の日本で踏み絵を踏まなかった信仰者たち。歴史は証言しています。どんな苦しみに見舞われたとしても、キリストへの信仰は「脱出の道」を作り出すのです。そして、キリストを信じる私たちは、どんな苦しみをも乗り越えて行けるのです。

3.31
火曜日

「ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」(I テサロニケ 5:11) ●イエスさまはわたしたちが「現にそうしている」こととして互いに励まし合っているといます。本当かな?とってしまいます。なかなか人を励ますことは難しいことです。励ましたつもりでも、相手のためにならなかつたり、逆に相手を怒らせてしまつたり。でも大丈夫です。私たちには「祈り」があります。祈りにまさる「励まし」はありません。日々の中で、毎週の祈禱会の中で互いのために祈ることを止めないならば、私たちはいつも誰かを励ましているのです。

4.1
水曜日

「終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なこと、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。」(フィリピ 4:8) ●私たちはいま何に“心に留めて”いるでしょうか。人間の脳というのは、危険や緊張を感じると分泌されるドーパミンが支配しているようです。ですが、パウロが言うように、もっと崇高なものを心に留めたいのです。それはイエスさまの真実・気高さ・正しさ・清さ・愛・名誉・徳・称賛です。これらのものはわたしたちがいつも心に留めてしまう事柄よ

りも重要なものです。私たちはいつも「イエス様だったらどうするか」を考え行動したいものです。

4.2
木曜日

「(あなたは)命の道を教えてください。私は御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い、右の御手から永遠の喜びをいただきます」(詩編 16:11) ●詩篇記者は神が“すぐそば”に居てくださることを肌で感じ、いつも心に喜びを感じていました。それは、真の故郷である「父なる神の胸の中」へ続く真実の道を知っていたからです。私たちには永遠に神と共に住む「故郷」があるのです。

4.3
金曜日

「あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば与えられます。」(ヤコブ 1:5) ●ヤコブの教会では教育が行き届かず人々の間で福音の理解に差が生じてしまっていました。現代でも私たちは福音を間違った形で理解している人々を批判し、排除しようとしてしまうかもしれません。ですが第一にすべきはその人を愛し、咎めず、彼らが正しい知恵へと導かれることを主に祈り求めることです。“まずは委ねる。”重要な教えです。

4.4
土曜日

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。」(哀歌 3:22) ●哀歌はユダの人々の破滅と離散の絶望で満ちています。しかし、そのちょうど真ん中に突如として現れる神の慈しみへの全き確信の歌は、荒野に萌え出た新芽のように奇跡的に表れます。主は耐えられない試練は与えず必ず絶望の先に希望を用意してくださいます。決して希望など見出せないどん底で主の慈しみは湧き上がるのです。

4.5
日曜日

「若者は言った、『驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。』」(マルコ 16:6) ●この時、女性の弟子たちは、イエスさまの以前に語られた言葉ではなく、自分の推測でイエスさまを捜しました。しかし、それではイエスさまの居場所はわかりません。真実はすでにイエスさまによって語られていました(マルコ 14:28)。「だから言ったじゃないか。私の言葉を忘れたのかい？」イエスさまはそう言って私たちにほほ笑みかけておられます。